

第1号議案 令和4年度事業計画に関する件

令和4年度事業計画

【はじめに】

令和元年度末から始まった新型コロナウイルスの感染流行による旅行制限などにより、当協会や関係団体の活動も中止や延期を余儀なくされる中、令和4年2月に始まったロシアによるウクライナ軍事侵攻により、エネルギーや食料不足などによるインフレが進行し、令和4年度は経済的に厳しい見通しがありますが、引き続いてナショナルトラストによるヤイロチョウが生息する森の取得・保全調査・普及啓発・持続可能な活用について取り組んでいきます。大規模な開発計画である四万十の尾根筋における風力発電計画への対応に加えて、ヤイロチョウのさえずる町づくりの推進を継続するとともに、令和3年9月に着手した、外来種・サンジャクによるヤイロチョウなど外来種の被害実態調査、捕獲&飼育実験について、資金不足を補うための募金を呼び掛けながら、令和4年度も引き続いて実施したいと考えています。令和4年度に実施したい主な取り組みは下記の通りです。

【トラストの森の拡充と調査・保全・パトロール等の取り組み】(1)(2)(3)(4)

- 1, 大規模風力発電計画については、中流域の尾根筋に大規模構造物を設置することが四万十川の価値を引き下げることが立証しながら、事業者に対して計画撤回を求める署名活動に取り組みます。
- 2, ヤイロチョウの森の生物多様性を保全するため、外来種・サンジャクによる影響調査の活動に取り組みます。
- 3, ヤイロチョウの森以外に当協会が保有しているトラスト地について、実態調査や活用計画について検討し、効率的な保全管理を目指します。
- 4, こうした活動を日常的に普及啓発するため、当協会の基幹的な施設として四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターの活動を継続・発展させます。

【自然林再生とワンダーランドの森整備の取り組み】(2)(4)(5)

- 1, 子どもたちがワンダーランドで遊べるようにドングリやヤマザクラなど広葉樹の苗木を植樹する他、激減しているヤマセミなどの繁殖地としての活用を検討します。
- 2, ワンダーランドの森の周辺で、継続して原木シイタケの森づくり、ニホンミツバチの繁殖が進むように、調査研究に取り組みます。
- 3, 王子ホールディングスの森に隣接して設置したトレッキングコース等を活用して、ヤイロチョウの餌となっているミミズなどの生態系調査や、観察イベントを行います。
- 4, 奥四万十地域で20年以上行われてきたブッポウソウの里づくりを応援し、希望者を対象にネイチャーセンターから車による観察会も行います。

【企業・行政・他団体と協力した森や水辺の保全活動&PR活動】(1)、(2)(5)(7)(8)(9)

- 1、当協会の野鳥や生態系保護について、マスコミや出版社などと協力して取り組みます。
- 2、企業の協賛を得て、2021年に続いて、「2022年ヤイロチョウの森を未来に！ぬりえ・絵画・作文コンクール」を実施します。
- 3、8月16日「ヤイロチョウの日記念イベント」では、これまで関心が薄かった土の中に暮らしているミミズなどの生物の観察を行います。
- 4、自然体験キャンプは、児童養護施設の子どもたちも参加できるように働きかけます。

【出版活動等の強化・拡充】(1)(5)(6)(9)

- 1、発行が延期になっていた中西悟堂協会編の『野鳥居』11号を5月中に発行します。
- 2、メーリングリストなども活用して生態系保護思想の普及に関するデータを集め、『続・生態系の不思議』の出版を目指します。
- 3、協会設立30周年を前に、1970年代の「生コン事件」から俯瞰して、高知県の歴史的な自然保護・生態系保全活動を総括した本の出版計画に着手します。
- 4、「森のしずく」の出版回数が財政的な理由により年2回になったことを踏まえ、持続可能な活動を行うために必要な財政力を強化するため、ネイチャーセンターの利用や、募金・寄附金を呼び掛ける印刷チラシ等を、目的を絞って数多く作成します。